

【研究ノート】

博物館における女性学芸員数に関して

The Tendencies and Characteristics of the Ratio of Men to Women on the Curators

塩川 友弥子*
Yumiko SHIOKAWA

はじめに

近年、博物館は新聞やテレビにもしばしば取り上げられるようになってきており、女性を含む学芸員が登場する機会にも増加の傾向がみられる。このような状況下、女性学芸員の数、また、男性学芸員との比率等はどのようになっているのであろうか。文部省の「平成8年度 社会教育調査報告」では、博物館の学芸員として、年齢別・資格条項別・専任学芸員数の統計表において、男1,682、女687の数字が、また、博物館類似施設の学芸員として、同種の統計表において、男774、女401の数字が示されている。

一方、(財)日本博物館協会発行の「全国博物館園職員録」(平成10年)では、都道府県別に各博物館について設置者・館種の別および職名を冠した係長相当職以上の職員及び学芸員の氏名が掲載されており、今回これにより女性学芸員数の把握を試みた。

カウントにあたって、学芸員としては、職名に学芸員または学芸の名称が付されているものとした。また、女性名としては、末尾に子がつくもの、ひらがな・カタカナ表記のもの、統計的に女性名として使われているものとした。しかしながら名前には、男性名としても女性名としても使われているもの、男性名か女性名かの判断が付きにくいものもあり、集計結果につい

ては概数にとどめてある。

1. 男性・女性別の博物館数、館員数、学芸員数

①博物館数、館員数

「全国博物館園職員録」(平成10年)では、博物館数⁽¹⁾としては2,820館余⁽²⁾が、館員数⁽³⁾としては11,280人余が数えられた。

この博物館数および博物館員数を男性館員のみ、男性館員と女性館員がいる館、女性館員のみ、館に分け、それぞれの館数および館員数の比率をみると、館数では男性館員のみ62.3%、男性館員と女性館員がいる館36.1%、女性のみ1.6%となる。一方、館員数では男性のみ39.8%、男性館員と女性館員がいる館59.6%、女性のみ0.6%である。

また、館員数について男性・女性別の割合をみると、男性館員は83%を占めるが、女性館員は僅かに17%にとどまる。

②学芸員数

学芸員数としては3,660人余を数えるが、この学芸員数について男性・女性別の割合をみると、男性学芸員は66.1%、女性学芸員は33.9%である。(図1)全館員数での男・女比はおおよそ5:1であるが、学芸員数での男・女比はおおよそ2:1であることから、学芸員の場合での女性の比率はかなり高いといえる。

* 神奈川県鎌倉市由比ヶ浜2-13-4-304

平成13年1月15日受理

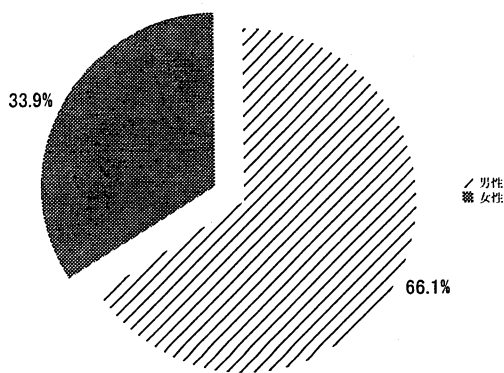


図1 男性学芸員と女性学芸員の割合

2. 女性学芸員に関して

①女性学芸員数と博物館数

女性学芸員数は1,240人余であり、女性学芸員を擁する博物館としては740館余を数える。このうち、女性学芸員のみを擁する館としては300館余を数えることができる。

なお、女性学芸員を擁する博物館1館あたりの学芸員数は約1.7人となる。

②都道府県別の女性学芸員数

女性学芸員数を都道府県別⁽⁴⁾にみると、東京は200人以上であるが、その他は50人以上が4県、10人以上50人未満が30県、10人未満が0の県を含め12県となる。

なお、ほとんどの県において男性学芸員数の方が女性学芸員数より多いが、中には女性学芸員数が男性学芸員数を上回っている県もみられる。(図2)

③館種別の女性学芸員数

女性学芸員数を館種別⁽⁵⁾にみると、美術が48.5%で最も多く、次いで歴史の33.3%である。この二つの館種で8割強を占め、これ以外の館種では、総合5.8%、郷土5.1%、理工3.2%、自然2.2%、動・水・植1.9%であり、それぞれ一桁台にとどまっている。(図3)

次に、女性学芸員を多く擁する美術と歴史について都道府県別の女性学芸員数をみると、美術では東

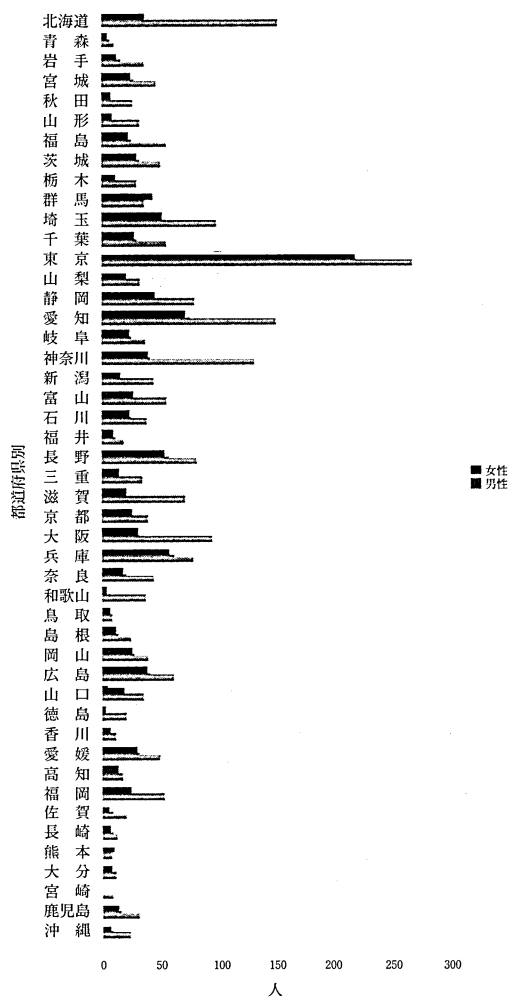
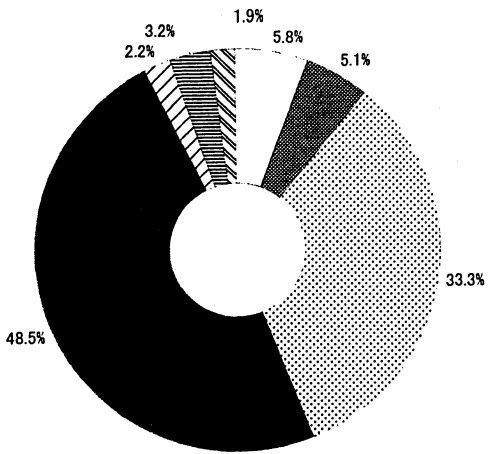


図2 都道府県別 男性・女性別 学芸員数

京が100人以上、愛知が30人台であるが、その他は10人以上30人未満が23県、10人未満が0の県を含め22県である。歴史では東京は50人以上であるが、10人以上30人未満が14県、10人未満が29県に及び、3県には女性学芸員はみられない。

なお、一桁台の館種のうち、総合では27県が10人未満であり、残り20県には女性学芸員はみられない。動・水・植では、14県が5人以下であり、女性学芸員がみられない県が33県に及んでいる。



総合 郷土 歴史 美術 理工 自然 道・水・植

図3 館種別女性学芸員の割合

④設置者別の女性学芸員数

女性学芸員数を博物館の設置者別⁽⁶⁾にみると、女性学芸員を最も多く擁しているのは市区町村立の40.8%、次いで法人立の27.6%、都道府県立の17.6%、その他の11.5%となるが、大学立では2.5%にとどまっている。

次に、女性学芸員を多く擁する市区町村立と法人立について都道府県別の女性学芸員数をみると、市区町村立では、東京が40人台、愛知が30人台であるが、その他は10人以上30人未満が18県、10人未満が23県に及び、4県には女性学芸員はみられない。法人立では、東京は60人台であるが、10人以上30人未満が10県、10人未満が28県に及び、8県には女性学芸員はみられない。なお、大学立では、10人以上は東京のみで、他は10人未満が10県、女性学芸員がみられない県が36県に及んでいる。

3. 管理職の女性学芸員

学芸員で管理職にあるものは、男性・女性合わせて1,100人弱が数えられるが、このうち女性学芸員は16.3%である。(図4)なお、女性学芸員で管理職にあるものは女性学芸員全体の14.2%に当たる。

次に、女性学芸員数を都道府県別および館種別にみた場合、都道府県別では、管理職の女性学芸員数は必ずしも都道府県別の女性学芸員数に比例せず、

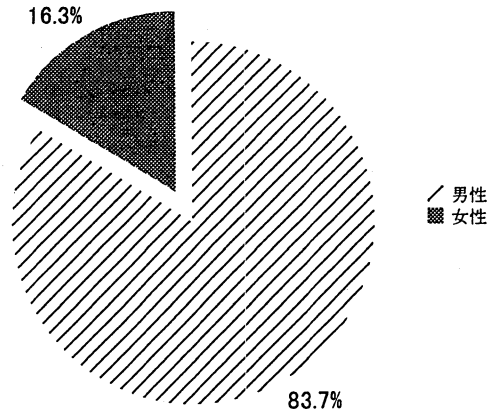


図4 管理職学芸員の男性・女性別の割合

二桁台の管理職女性学芸員数は東京と埼玉のみで、この2県以外は全て一桁台であり、なお、管理職の女性学芸員がみられない県も8県に及ぶ。

館種別では、歴史が45%、美術が36%であり、この二種で約8割強を占める。女性学芸員全体では美術が48.5%、歴史が33.3%であるので、管理職の学芸員の場合は、歴史と美術の順位が入れ替わっているが、いずれにしてもこの二種が高比率となっている。

4. 女性が館長である博物館

①博物館数について

女性が館長⁽⁷⁾である博物館数については、110館余を数えることができる。このうち約6割の館には男性館員もみられるが、約4割は女性の館員のみである。なお、この約4割の女性館員のみ館のうち、3/4は女性の館長1人だけの館である。

②学芸員数について

女性が館長である博物館には120人弱の学芸員を数えるが、このうち男性学芸員数は38.1%、女性学芸員数は61.9%であり、女性学芸員数が男性学芸員数を大幅に上回っている。

女性が館長の博物館で女性館員のみの場合、館長一人だけの館を除き全てに女性学芸員が存在している。女性が館長の博物館で男性館員もいる場合は、男性学芸員数は47%、女性学芸員数は53%となり、僅かではあるが女性学芸員が男性学芸員を上回って

いる。

なお、女性が館長である博物館の1館当たりの学芸員数は、館長一人だけの館を除き、博物館1館当たりの平均学芸員数を僅かではあるが上回っている。

むすび

集計結果から、女性学芸員数に関して次のような傾向をみることができる。

学芸員全体では、女性学芸員数は高比率であるが、管理職では、管理職の学芸員全体に占める女性学芸員の比率はかなり低くなる。しかし、わが国の管理職全体に占める女性管理職の比率は10.8%⁽⁶⁾であるので、学芸員の場合、管理職の女性学芸員の割合はこの全国平均を大きく上回っているといえる。

次に、博物館全体を館種別にみた場合、館数も館員数も美術や歴史の比率が高いが、女性学芸員数では、これらの比率が一層高くなり、逆に理工や動・水・植などの比率は極めて低く、著しい偏在性がみられる。

最後に、女性が館長である博物館は4%に過ぎず、一部の例外を除き小規模館であるが、学芸員を擁する比率はかなり高いことである。

以上、数字の上からだけではあるが、博物館は、女性学芸員を含め女性の仕事の場として恵まれていると思われると同時に、女性学芸員の比率からは、マスコミ等への登場の度合いなども、更に増加してよいのではないと思われる。

脚注

- (1) 美術館、資料館、記念館、科学館、動物園、水族館、植物園、センター等は全て「博物館」の名称で代表させ、場合によっては「館」と略称してある。
- (2) 国立博物館では、役職に学芸員・学芸の名称が冠されているのは極めて少数であるため、本稿では省いた。
- (3) (1) のとおり、全て「博物館」の名称で代表させてあるのに従い、学芸員を含む職員を「館員」としてある。
- (4) 都道府県名の記載は、北海道以外は固有名詞のみとし都府県を省略。なお、数詞としては

県を使用している。

- (5) 総合（総合博物館）、郷土（郷土博物館）、歴史（歴史・考古・民俗・民族・文学の各博物館）、美術（美術博物館）、自然史（自然史博物館）、理工（理工学・科学博物館）は「全国博物館園職員録」の区分の略記によるが、「動・水・植」には、動物園・水族館・植物園の他、それぞれ2館または3館を組合わせた複合施設も含ませてある。
- (6) 「全国博物館園職員録」における区分を更にまとめ、都道府県立、市区町村立、法人立（財団、社団、宗教、学校、特殊の各法人を含む）、大学立（国大・私大附属）、その他（会社、組合、個人、公立・私立その他を含む）としてある。
- (7) 館長には園長、理事長等を含む。
- (8) 『平成8年版 働く女性の实情』によると、「役職別に管理職全体に占める女性の割合をみると、部長相当職で1.5%、課長相当職で2.0%、係長相当職で7.3%」と記されており、管理職の割合を合計すると10.8%となる。

参考文献

- 文部省「平成8年度 社会教育調査報告書」大蔵省印刷局 1998
- (財)日本博物館協会「全国博物館園職員録」(財)日本博物館協会 1998
- PHP研究新編「名前の本」PHP雑学ライブラリー① 1991
- 国協泰秀「赤ちゃんの新しい名前事典」(株)西東社 1994
- 高村龍「男の子・女の子 赤ちゃんのいい名前事典」(株)有紀書房 1997
- 編者代表 金田一春彦・林 大・柴田 武「日本語百科大事典」(株)大修館書店 1989
- 寿岳章子「日本人の名前」(株)大修館書店 1979
- 労働省婦人局編「平成8年版 働く女性の实情」(財)21世紀職業財団 1996